

ミットヨ、全数検査を容易に行えるCNC画像測定機を発売

ミットヨ[川崎市高津区]は、CNC画像測定機、クイックビジョンシステムのラインナップに新たに「クイックビジョン Active シリーズ」(写真)を加え発売した。価格は530万円から。電子部品、自動車部品、医療機器の部品など全数検査を必要とする多様なニ



写真 QV Active 202

ーズに応える製品として位置付けた。東南アジアを中心とした海外市場への展開も行う。

同社のクイックビジョンシステムは、撮影素子を搭載した光学ユニットをCNC制御の3軸座標測定機に搭載し、測定物の映像をコンピュータ処理することで、非接触で寸法測定を行える精密測定機。

新シリーズでは、観察像の変倍が可能なズームレンズや高精細なカラー画像を映せる130万画素のメガピクセルカラーカメラを搭載した。ズームレンズは、ズーム倍率7倍(8段階変倍)のズームと1x、1.5x、2xの3本の対物レンズ

を組み合わせられる光学系を搭載したことで、最大ズーム比14倍を達成した。これにより幅広い測定ワークに柔軟に対応できるようになった。

また、全灯に白色の高輝度LED照明を採用し、高い応答性を実現し、照度変更が頻繁に必要なワーク測定時にも作業が停滞しないようになった。

さらにタッチトリガープローブ搭載モデルを用意したことで、タッチトリガーによる接触測定が行えるようになった。これにより画像測定では困難な部位の測定や立体ワークの段差測定などが可能になった。

JMAC、製品開発の実態調査「性能向上も市場価格低下」

日本能率協会コンサルティング(JMAC)は、国内企業の研究開発現場と事業貢献のための取組み実態を把握するため、「新たな価値創りに関するアンケート調査」を2015年7月から10月末日にかけて実施し、149件の回答を得た。調査は1994年から3年ごとに実施されている。

それによると1990年を基準にすると、2015年に市場投入されている製品の機能は2倍以上に向上したと評価す

る一方、それに対する製品価格は半分以下に下落しているとの認識が示されたという。

また、2009年には、半数を超える事業所が、「研究開発部門で開発された技術は多く採用され、商品の競争力向上に大いに寄与している」と回答していたのに対し、今回の調査では33%にとどまった。一方、「研究開発部門で開発された技術は多く採用されているが、商品の競争力向上にはそれほど寄与していない」

との回答は2009年調査の32%から45%へ増加した。

JMACでは、かつてはよい製品や技術が事業の好業績に直結していたが、近年は開発以前の競争ルール自体のデザインといったことが問われ、研究開発部門の果たすべき役割の幅が広がっていることを物語っていると分析。これからは従来の競争ルールそのものを根本から変えるような開発成果創出に向けた取組みを行うよう提言している。